

平成29年度町政懇談会（雫石公民館）会議録

<実施日> 平成29年7月10日（月） 午後6時30分～午後8時00分

<場所> 雫石公民館 会議室

<出席者> 谷町長、米澤副町長、吉川教育長
築場徳光企画監、若林武文企画監、高橋賢秀企画監、
古川端琴也企画監
志田透長寿支援課課長、大久保浩和総合福祉課長、
柳屋るり子健康推進課長
司会：吉田留美子総務課長

<参加者数> 35人

（懇談会の次第と要旨は以下のとおり）

1) 開 会 総務課長が開会を告げる

2) 出席者紹介及び事務連絡

総務課長より谷町長、米澤副町長、吉川教育長、出席企画監、
関係課長、事務局職員を紹介。

総務課長より日程等を説明。

3) 町長挨拶、概要説明

（下記記載のとおり）

4) 懇 談 （下記記載のとおり）

5) 所 感 （下記記載のとおり）

6) 閉 会 総務課長が閉会を告げた。

開会 （吉田総務課長）

《町長挨拶、概要説明》

おばんでございます。急に高温になりました 高齢者等の健康が心配です。

今年度はテーマを設けてやらさせていただきます。

国も地方も人口減少のうねりの中にいる、三年前、増田さんが人口減少が止まらないと
いって衝撃がありました 900に近い市町村の消滅の警鐘を鳴らしました。

雫石町も国、県と呼応しながら、人口ビジョンを策定しました。

雫石町は2000年をピークに減少が続いている 2040年には11,300人位にな
るというデータがある。

人口ビジョンを作り、総合戦略を作り現在に至っています。

少子高齢化になっている。先般の講演では68年後に人口0人になるという極端な分析結果を示された。

雫石町としては、これを食い止めなければならない、人口15,700人に食い止める数値目標を掲げています。

地域包括ケアシステムについて意見交換をしていただき、懇談会を進めていきたいと思えます。

(新聞記事引用 老々介護について)

(以下資料による事業説明)

・地域包括ケアシステムの構築について

《懇談》

町民：雫石町らしい体制の確立とあったが、どこかに視察に行ったのか、また雫石町内だけの話し合いだけでの確立でしょうか

長寿支援課長：この策定に際しては、職員が先進地視察を行っている、今年度も視察に行く予定です。宮城県の涌谷町と県立大船渡病院へ行きます。

今年度は、関係者や町民へアンケートを行って課題を浮き彫りにしてやっていきたいと思っています。

町民：地域包括ケアシステムを初めて聞きました、資料があるのでもう少し詳しい内容を聞きたい。

総合福祉課長：地域包括ケアシステムは一言でいえば、地域の中で年老いてもその地域で暮らしていくこと、支援が必要な人に連携しながら支援していくということです。

1ページに載せていますが、医療・介護・福祉で支援の必要な方を支援していくというものです。

今回、検討構築していくものは4つの重要事業

他職種の連携、情報共有ネットワーク化、総合相談窓口の設置、地域における拠点づくりと生活支援体制の構築では、今までやっていなかったのか、となるが今までもやってきています。

5、6ページに載っていますが、医療については、西山と御明神の出張診療所の開設、福祉的取組では、低所得等住まい生活支援取り組みとかです。

少しの支援で、地域で生活できる人を支援していくという事業です。

昨年までは、厚生労働省のモデル事業として取り組んでいましたが、今年度は町の事業としてやっています。

生活物資の移動販売による買い物支援では、移動販売車「とくし丸」という車両が

2台町内を回っています。

末永く、地域の中で生活していけるよう仕組みをつくって行きたいと思っています。
地域包括ケアシステムをすることは、町づくりにつながるのだと思っています。

町民：町では孤独死に対するケアシステムはどうなっているのですか、一人暮らし老人などの孤独死に対するケアシステムはどうなっているのか

総合福祉課長：全国的にも問題になっている状況で、町内でもあります。

今の取り組みは、お互い様情報交換会という事で、74行政区の内65行政区で地域コミュニティを組織してもらっています。

災害時の要支援者の支援と併せてそういう人たちの緩やかな見守りをお願いしています。

民生委員とかにも同席してもらい、連携を取ながら見守りをやっています。

一昨年から各企業、事業所をお願いしているものもあります。

例えば、郵便局へ高齢者等の見守りをお願いしています。また買い物支援の中で、高齢者宅の様子を通報してもらおうようにしてもらっています。

町民：去年の町政懇談会で発言したのですが、町が誘致した川井林業の低周波で健康被害を受けています。

14ヘクタールの問題について町が進めていますが、そっちに力を注いで、本来の町民のための仕事がおろそかにならないかと、発言したが1年2ヶ月経っても何の進展もない。

どのように、川井林業の健康被害の対策について交渉してきたのか。

他の地域の懇談会で14ヘクタールについて出た時は、地域包括ケアシステムだから今は、問題にしないで欲しいという話を聞き及んだ、でもあそこの問題は町民が使えなければ意味がないと思っています。

一年前には私のような貧乏世帯でも入れるのかと聞きました、入れるようにしたいとの事でした、現在はどうなっているのでしょうか

あそこの隣接地に、大規模なメガソーラーがある、97,000枚のパネルが有る、全国的に低周波と電磁波の問題起きている、町長も感じている。

メガソーラーのそばに、高齢者向けの施設を作っているのか、健康被害が生じないか、将来移住してきた時、その人に町は瑕疵責任を負うことになります。

副町長：川井林業とは町としても、再三にわたり相談しておりました。

町民：いつ、どこで、だれと、ですか。

副町長：担当課を通じて、地元の方から話があると伝え、川井林業から事情を聴くなり、講じた対策の部分を確認して対応はしてきた。

町民：全く変わらないのですが、これは環境対策課とか担当課の話ではない、誘致した町のトップと企業トップが立地協定を土台にして交渉をしなければならない。

1年2か月の間に町長はやってくれましたか

町長：この案件については、嘉糠さん他 中村会長さん等、要請はありました。町としてもトップ同士ということで、私が再三社長に申し入れをしました。

川井林業のトップに話をして、解決できるものから一つ一つとお願いしています。

いろんな測定や工場の防音装置もした。

一つ一つ文書で解決する様に出したが、その反応が会社として遅い、最近では行政から要請をしても、川井林業は「法的な根拠に基づいて事業を展開している」との回答です。

町民：町長は、1年2か月は動いていませんよね、今日のテーマは地域包括ケアシステムの話ですが、その前に、今受けている健康被害を何とかしてもらいたい。

町長：こちらはこちらでキチッと対応していると自負しています。

町民：その都度、連絡が欲しい、被害の軽減で町のケアシステムが利用できるような、早く体や心のゆとりが欲しい。早く、具体的に動いてほしい。

町長：今後展開する施設については、事業所側も町民の方で希望する方はお入りくださいということで事業展開します。8月広報にはその事を記載します。

メガソーラーの低周波を防御する装置を構築するよう依頼しています。それは事業者も承諾済みです。

町民：九州北部の豪雨で孤立した老夫婦にヘルプの手を差し伸べたことについてテレビで言っていた、隣の友人がおんぶしてくれたなど。

隣近所の付き合いは大事だ、ということでした。

自治会組織の充実が喫緊の課題だと思う。ぜひ、そういう視点を大事にして町民をリードしてほしい。

私の母は99歳で先日亡くなった、寝たきり介護認定5で15年寝たきりだった。会話は出来ないが、自分の母なので、介護したがその中で、言葉を発しなくても、話しかけると反応すると介護の喜びだとおもった。

広報に載っていた、多職種の連携強化、医療機関と介護事業所と訪問介護ステーションの連携強化とある。

24時間体制で、看護の方が即刻対応することに、感謝を申し上げます。

広報にあるように、医療機関のシステムの充実について、住民に向けて宣伝してもいいと思うので、広報にそれらも載せてほしい。

人口減少対策で、増田さんの本も読んだ、高齢化人口減少は避けて通れないと思う、町づくりの関係でいろいろと地域の方と協議をしているが、人のいないところに活性化は出来ない、花巻市の土沢「こっぼら土澤」に古くて近代的な長屋（まちなか居住長屋）を作って、人との流れを呼ぶことを視察してきた。

空き店舗についても、地域包括ケアシステムも含めて、意見を行政がまとめていたできれば、私たちも検討できる。

町長：ありがとうございます。

長寿支援課長：多職種について、地域包括ケアシステムについては、ある先生は地域連携とは言えないかと言われた。

基本は住民のつながりを促進する地域づくり、病気等で困っている人は医療関係者に頼ると思う、そのような連携を今以上に気づき再認識をすること。

先ごろ、医療関係者と話す機会があった、その中で、このような分野を横断した話し合いがすでに画期的だとの意見もあった。

多職種の連携はこれからですが、町民の方にニーズを拾い上げ、最終的には形にしたいと思っています。

健康推進課長：訪問看護ステーション（こころ）について、5月末の状況で利用者数32名延べ169回 5.2回/月です。

主治医の指示書などは、10か所以上の医療機関からもらっています。

町民：看護師さんの労働条件はきついと思うが、賃金形態は分からないが、労働上意見の改善をお願いしたい。

中町1自治会に地域包括ケアステーションからきて説明をしてもらった、やっぱり懇談をしてディスカッションで理解を深めた方がいい。地域の意見を吸収して、反映させてほしい。

健康推進課長：訪問看護ステーションはいろいろな所から指示書がでていますが、診療所で月1回打ち合わせをしています。

町民：地域コミュニティの中では、2つの支出の項目がある、一つは自主防災会、もう一つはお互い様情報交換会、情報交換会は3年目になる

中町1についての行政の資料を拝見して、むしろ自分は積極的にやらなきゃないと自治会長として思った。

今までは、医療・保健・福祉に介護がついた、住民にとっては、一元化は素晴らしい施設、また町民も自ら地域包括ケアシステムに溶け込んでいく必要がある。

医療について、西山、御所診療所の医療ニーズについて、医師不足が波及している

かと思う。国民健康保険料について、各自治体で決めていると思うが、今度 県の方に移管するという記事を見た。その辺の説明をお願いします。

健康推進課長：医療スタッフについては診療所には常勤医師は2名、平成26年8月から西山と御明神出張診療所を開設しています。毎週木曜日に診療を行っています。

利用者数は、平成28年度は西山は106名2.3人/回、御明神112名2.4人/回

御所診療所は閉所になったが、御所診療所の開設は厳しい状況です。

町民課長：国保の保険料については、市町村毎に違うが、30年度から岩手県では広域化ということで県の方で財政の調整をすることになります。

沿岸は低い、将来的には一本化が国の意向です。

短期では一本化して行けないので、だんだんに保険料を調整しようということになっています。30年度から保険料をいきなり上げる状況ではない。

いろいろ資料は出てきているが、5年位の間隔で保険料の見直しをしている状況です。

町民：私は今の地域包括ケアシステムに問題なく暮らしている、ショートステイもデイサービスも使えて、月1回の訪問診療もある。

なぜ、此処に介護をしている女性が来ていないか不思議だと思います。

介護はきれいごとじゃない、母親でも仕事の両立すること、いろいろ思う、今の老年寄りは幸せだと思う、施設にも入れる、デイサービスも受けられる。

私たちがこうなったら、「誰が世話してくれるの」って思う。今はいいんですが、私たちが年を取った時は誰が世話をしてくれるの、子供は頼れない。

私は、喫茶店をしていると、色んな人が来ていっぱいしゃべって帰っていきます。しゃべって、すっきりして帰って行きます。

行政のシステムの説明より、私たちの精神的なケアについてどう思っていますか。

盛岡辺りには、在宅ケアについて看取るまでのシステムがあると聞いた、雫石町でも施設に入れられない人が増えてくるとおもうと、雫石町独自のケアについてもチーム作りをしてほしい。

介護している女性の方の話を聞く機会や場所を増やした方がいいと思います。

総合福祉課長：今、システムに絡んで多職種ということで医療や介護施設との連携を進めています。

総合相談窓口ということで、介護のほか子育てなど複合している世帯が増えてきている状況です。

ワンストップで対応できないかと思い検討している最中です。

千葉診療所長：地域包括ケアシステムに研修では、お世話になりたくないとかの話も出たりした。

2025年問題で高齢者が増える、その時にどうしたらいいかというのを町として考えていこうとして始まっている。今、今のことではなく、将来に向けて考えていきたい。

ケアシステムは末期の人たちだけではなく、一つは予防、若い人に頼らないぐらいの体を作ろうということ。

老人たちと、他世代との交流も予防の一つだと思う。

もう一つは、介護が必要になった時、介護度が進まないためにはどうするか、介護保険を利用したけど、もう使わないようにするにはどうするのか、多職種でその人に合った一番いい方法を考える。これが多職種

総合窓口はここに行けば、相談に乗ってくれるという窓口を作ろうということなので 今まで以上に使いやすくなると思う

末期になって、何処で死に場所を見つけるか、4年前に来たが、訪問介護ステーションをやりたいとのこと、その時40代の女性でしたが、残り短い時間の人が家族と一緒にいたいとのことで在宅介護で最後は喜んで頂いた。

家庭の事情で連れて帰れない人には、せめて外出をさせようとやっている。

出来ないことは無いし、対応できるように、やっていきたいと思います。

開業医の中でも看取りをやっている医師がいます。

介護している若い人が、離職しなくてもいいのも活性化に繋がる、地域包括ケアシステムだとも思う。

皆さん方が、どう生きたいかということが、反映されるので、皆さんに問われていると思います。

町民：健康福祉計画があるが、その中に福祉施設の一覧があるが、最近の新聞に無認可の施設について載っていたりするが、雫石町には無いですね

14ヘクタールのサービス付き高齢者住宅ですが、バリアフリーとユニバーサルデザインの審査について、何処が行うのか

この懇談会で、ケアシステムだけでこんなに時間を取って、年一回の町長懇談会もつと時間を取ってもらって、町長に直接話をしたい。

長寿支援課長：今朝の日報だと思うが、町内では無認可施設の存在は把握していないです。

町民：盛岡近郊も無いんですね

副町長：14ヘクタールの住宅について、バリアフリーの審査ですが、基本的には建築基準なので国交省だと思います。調べさせてもらいます。

町民：ユニバーサルデザインの審査について、町民は関われるのか。

総務課長：ユニバーサルデザインの体験とかは、地域整備課の事業としてやっていますが、七ツ森のものについては今は全く決まっていません。

町民：広報5月号を読んだがわからなかった、横文字が非常に多く、20以上の横文字、読みづらい、横文字はいろんなイメージを与えてしまう。

なるべくなら横文字は減らした方がいいと思う。

多職種の連携強化によりとあるが、多職種とはなんですか

情報の共有ネットワーク化とは、どんな情報、医療情報などは外に出してはいけないものですね、ものによっては必要のないもの、役場が知ってはいけない情報もある、あんまり簡単にやってはいけないと思う。

総合相談窓口の設置ということは、今は無いということですね。

介護予防活動地区のモデル地区について、既にあるのか、動きつつあるのか。生活支援コーディネーターは居るのか、居ないのか。地域コミュニティは何を指しているのか。

この文書を見ただけではほとんどわからないです。

資料の人口の推移のグラフですが、総人口の数字が無いので、人口の推移がわかりづらい。

このグラフを見て、一番手を打たなきゃいけないのは生産人口、若者じゃないのか、老年者二人連れてくるよりは若者一人の方がはるかに生産性が高い、余所から金持ちの老人より、若い人の方がはるかにいい、高卒が何人残るのか、雫石に戻って来るのか、来ない、これが人口減少の大きな原因。

雫石に受け皿がない、雫石では飯が食えない、高校を卒業した18・19歳の人が働ける職場を作る、大学卒業した人が戻ってくる、そういう事にもっと力を入れるべき、そういうことに対して町が何をやっているのか。

総務課長：広報の表現については、わかりやすい表現に気を付けます。

町長：今回の調整懇談会では、ほかの三か所での意見もあるので、もっとまとめてわかりやすくして広報に出していきます。

若者の定住については、今具体的なものはないですが、人口減少の要因やそれについての対応も少しあります。

企画財政課長：一番の要因は若者、生産人口を町内に少しでも残すことが重要と思っています。

人口減少対策の4つの取り組みでは

一つは仕事を作る取り組み、農林課、観光商工課中心となって支援制度について検

討して取り組んでいます。

二つ目は、出産子育ての環境の改善の取り組みで、福祉部門、教育部門が取り組みを進めています。

町有地関係の移住対策についても、移住ツアーやイベントも行っています。実際移住されている方は20代30代40代の方から移住の動きが出ています。

四つ目が、地域づくりです、町内全体が、4地区が素晴らしいものにならないとダメだろうということで、住民の皆さんと地域づくり計画を進めています。この四つの柱を総合的に進めています。

人口減少は全国的に進んでいるので、当町だけではないですが、少しでも人口減少に歯止めをかけるため、取り組みを進めています。

町民：農業人口は減っていませんか、町の通りシャッターを閉じている所が増えてませんか、後継者などの問題もあると思う。

一個一個の原因を減らしていくこと、今あるものを大事にすることが基本だと思います。

昔は世襲で、家業を守ってきた、人が変わっても、形が変わっても何とか残すのが大事かと思う。

町長：ここ5年ぐらいでも、農業者人口などは、極端には減っていないが、高齢で小規模の農家の方が、自分では出来ないので頼むなどはあるが、農業生産額自体は減っていない。

畜産なども、全体の頭数が減ってきていたものに、町として補助等を出している、若手経営者に対する支援なども行っている。

商店街の空き店舗の改修についても補助をしている、少しずつ新しい店ができつつある。

町民：民生委員の数を減らせないか、今56人いるが、持ち数が多い所が林地区で330戸位、100件以下の行政区は多くある3分の1以上ある。

そういうところは民生委員が区をまたがってやれるようにならないか、その経費を少子化や高齢化などの事業に使えないかと思う。

総合福祉課長：57地区の民生委員をお願いしているが、300世帯を超えるところから30・40世帯の所、それぞれ受け持ち人数が偏っている所もある、中には掛け持ちしている民生委員もいます。

民生委員のそれぞれの地区の会長と協議はしているが、まずは現状のままで取り組みをしていこうということにしています。

なかなか今、民生委員のなり手もないので、そのような状況もあり今後の進め方を検討してまいります。

町民：町政懇談会の回答が遅いのもっと早く、回答書を見ると的の外れた回答もある、内容を、吟味をしてほしい。

3月12日の4地区別発表会について、素晴らしい計画と方向性があるので行政側でもこういう場で、こういう事（地域包括ケアシステム）の発表があるとありがたい。

町長：大変不便をお掛けして申し訳ありません。最後のことは地域の方を中心にして進めてきた経緯もあるので、ご意見として承ります。

《所感》

暑い中申し訳ありません、テーマの説明不足について、来年同時期にテーマについて告知してやりたいと思います。